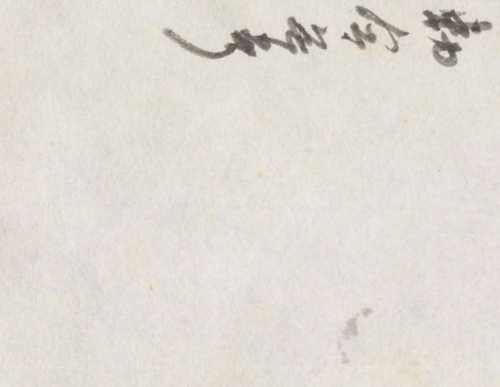
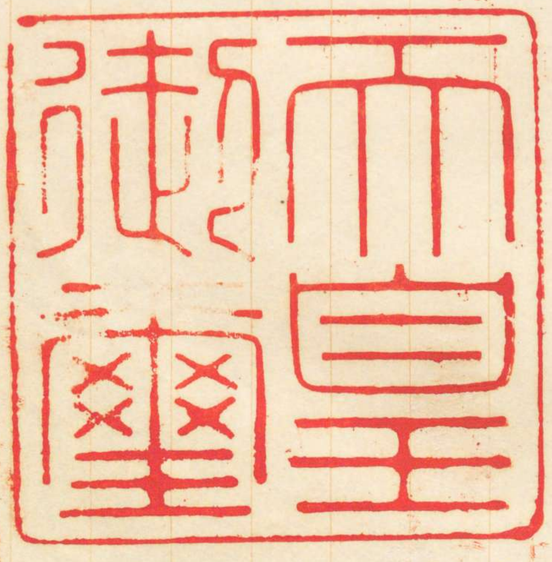


国立公文書館
National Archives of Japan

朕明治二十八年四月十七日下ノ關ニ於テ朕カ
全權辨理大臣ト清國全權大臣ノ記名調印
シタル媾和條約及別約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公
布セシム

睦仁



明治二十八年五月十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

外務大臣子爵陸奥宗光

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ
兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ
且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ媾和
條約ヲ訂結スル爲メニ大日本國皇帝陛
下ハ内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊
藤博文外務大臣從二位勲一等子爵陸奥
宗光ヲ大清國皇帝陛下ハ太子太傅文華
殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯
李鴻章二品頂戴前出使大臣李經方ヲ各

其ノ全權大臣ニ任命セリ因テ各全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條

清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認ス因テ右獨立自主ヲ損害スヘキ朝鮮國ヨリ清國ニ對スル貢獻典禮等ハ將來全ク之ヲ廢止スヘシ

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在ル城壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本ニ割與ス

一　左ノ經界内ニ在ル奉天省南部ノ地

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城海城營口ニ亘リ遼河口ニ至ル折線以南ノ地併セテ前記ノ各城市ヲ包含ス而シテ遼河ヲ以

テ界上トスル處ハ該河ノ中央ヲ
以テ經界トスルコトト知ルヘ
シ

二　遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ
奉天省ニ屬スル諸島嶼

三　臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼
澎湖列島即英國「グリーンウイ
チ」東經百十九度乃至百二十度
及北緯二十三度乃至二十四度
ノ間ニ在ル諸島嶼

第三條

前條ニ掲載シ附屬地圖ニ示ス所ノ經界
線ハ本約批准交換後直チニ日清兩國ヨ
リ各二名以上ノ境界共同劃定委員ヲ任
命シ實地ニ就テ確定スル所アルヘキモ
ノトス而シテ若本約ニ掲記スル所ノ境
界ニシテ地形上又ハ施政上ノ點ニ付完
全ナラサルニ於テハ該境界劃定委員ハ
之ヲ更正スルコトニ任スヘシ
該境界劃定委員ハ成ルヘク速ニ其ノ任

務ニ從事シ其ノ任命後一箇年以内ニ之ヲ終了スヘシ

但シ該境界劃定委員ニ於テ更定スル所アルニ當リテ其ノ更定シタル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ可認スル迄ハ本約ニ掲記スル所ノ經界線ヲ維持スヘシ

第四條

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀貳億兩ヲ日本國ニ支拂フヘキコトヲ約ス右金額ハ都合八回ニ分チ初回及次回ニハ每回五千萬兩ヲ支拂フヘシ而シテ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六箇月以内ニ次回ノ拂込ハ本約批准交換後十二箇月以内ニ於テスヘシ殘リノ金額ハ六箇年賦ニ分チ其ノ第一次ハ本約批准交換後二箇年以内ニ其ノ第二次ハ本約批准交換後三箇年以内ニ其ノ第三次ハ本約批准交換後四箇年以内ニ其ノ第四次ハ本約批准交換後五箇年以内ニ其ノ第五次ハ本約批准交換後六箇年以内ニ其ノ第六

次ハ本約批准交換後七箇年以内ニ支拂フヘシ又初回拂込ノ期日ヨリ以後未タ拂込ヲ了ラサル額ニ對シテハ毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フヘキモノトス

但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ全額或ハ其ノ幾分ヲ前以テ一時ニ支拂フコトヲ得ヘシ如シ本約批准交換後三箇年以内ニ該賠償金ノ總額ヲ皆濟スルトキハ總テ利子ヲ免除スヘシ若夫迄ニ二箇年半若ハ更ニ短期ノ利子ヲ拂込ミタルモノアルトキハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第五條

日本國ヘ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ自由ニ其ノ所有不動産ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ヘシ其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ二箇年間ヲ猶豫スヘシ但シ右年限ノ滿チタルトキハ未タ該地方ヲ去ラサル住民ヲ日本

國ノ都合ニ因リ日本國臣民ト視爲スコトアルヘシ

日清兩國政府ハ本約批准交換後直チニ各一名以上ノ委員ヲ臺灣省ヘ派遣シ該省ノ受渡ヲ爲スヘシ而シテ本約批准交換後二箇月以内ニ右受渡ヲ完了スヘシ

第六條

日清兩國間ノ一切ノ條約ハ交戰ノ爲メ消滅シタレハ清國ハ本約批准交換ノ後速ニ全權委員ヲ任命シ日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定ヲ締結スヘキコトヲ約ス而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ該日清兩國間諸條約ノ基礎ト爲スヘシ又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ實施ニ至ル迄ハ清國ハ日本國政府官吏商業航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ總テ最惠國待遇ヲ與フヘシ

清國ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲シ而シテ該

讓與ハ本約調印ノ日ヨリ六箇月ノ後有效ノモノトス

第一　清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ日本國臣民ノ商業住居工業及製造業ノ為メニ左ノ市港ヲ開クヘシ但シ現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハルル所ト同一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益ヲ享有スヘキモノトス

一　湖北省荊州府沙市
二　四川省重慶府
三　江蘇省蘇州府
四　浙江省杭州府

日本國政府ハ以上列記スル所ノ市港中何レノ處ニモ領事官ヲ置クノ權利アルモノトス

第二　旅客及貨物運送ノ為メ日本國汽船ノ航路ヲ左記ノ場所ニ迄擴張スヘシ

一　揚子江上流湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル

二　上海ヨリ吳淞江及運河ニ入リ蘇州杭州ニ至ル

日清兩國ニ於テ新章程ヲ妥定スル迄ハ前記航路ニ關シ適用シ得ヘキ限ハ外國船舶清國内地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スヘシ

第三

日本國臣民カ清國内地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ又ハ其ノ輸入シタル商品ヲ清國内地ヘ運送スルニハ右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ何等ノ稅金厘立金ヲモ納ムルコトナク一時倉庫ヲ借入ルルノ權利ヲ有スヘシ

第四

日本國臣民ハ清國各處市場處港場ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ヘク又

所定ノ輸入税ヲ拂フノミニテ
自由ニ各種ノ器械類ヲ清國ヘ
輸入スルコトヲ得ヘシ
清國ニ於ケル日本臣民ノ製造
ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ内
國運送税内地税賦課金取立金
ニ関シ又清國内地ニ於ケル倉
入上ノ便益ニ関シ日本國臣民
カ清國ヘ輸入シタル商品ト同
一ノ取扱ヲ受ケ且同一ノ特典
ヘキモノトス
章程ヲ規定スル
ハ之ヲ本條ニ規定
スヘキ

第七條

現ニ清國版圖内ニ在ル日本國軍隊ノ撤
回ハ本約批准交換後三箇月内ニ於テス
ヘシ但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フ
ヘキモノトス

此等ノ讓與
コトヲ要スル
スル所ノ通商航海條約中ニ具載スヘキ
モノトス

所定ノ輸入税ヲ拂フノミニテ
自由ニ各種ノ器械類ヲ清國ヘ
輸入スルコトヲ得ヘシ
清國ニ於ケル日本臣民ノ製造
ニ係ル切ノ貨品ハ各種ノ内
國運内地税賦課金取立金
ニ関シ清國内地ニ於ケル倉
入ニ関シ日本國臣民
カヘシタル商品ト同
一ノ特典
交ケ且同一ノ特典

免除ヲ享有スヘキモノトス
此等ノ讓與ニ関シ更ニ章程ヲ規定スル
コトヲ要スル場合ニハ之ヲ本條ニ規定
スル所ノ通商航海條約中ニ具載スヘキ
モノトス

第七條

現ニ清國版圖内ニ在ル日本國軍隊ノ撤
回ハ本約批准交換後三箇月内ニ於テス
ヘシ但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フ
ヘキモノトス

第八條

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スヘキ擔保トシテ日本國軍隊ノ一時山東省威海衛ヲ占領スルコトヲ承諾ス而シテ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ初回次回ノ拂込ヲ了リ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル時ニ當リテ清國政府ニテ右賠償金ノ殘額ノ元利ニ對シ充分適當ナル取極ヲ立テ清國海關稅ヲ以テ抵當トシ爲スコトヲ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊ヲ前記ノ場所ヨリ撤回スヘシ若又之ニ關シ充分適當ナル取極立タサル場合ニハ誤賠償金ノ最終回ノ拂込ヲ了リタル時ニ非サレハ撤回セサルヘシ尤通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ非サレハ軍隊ノ撤回ヲ行ハサルモノト承知スヘシ

第九條

本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ有ル所ノ俘虜ヲ還附スヘシ而シテ清國

ハ日本國ヨリ斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若ハ處刑セサルヘキコトヲ約ス

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若ハ犯罪者ト認メラレタルモノハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清國ハ又交戰中日本國軍隊ト種種ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サス又之ヲ爲サシメサルコトヲ約ス

第十條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スヘシ

第十一條

本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘク而シテ右批准ハ芝罘ニ於テ明治二十八年五月八日即光緒二十一年四月十四日ニ交換セラルヘシ

右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ茲ニ記

名請印スルモノナリ

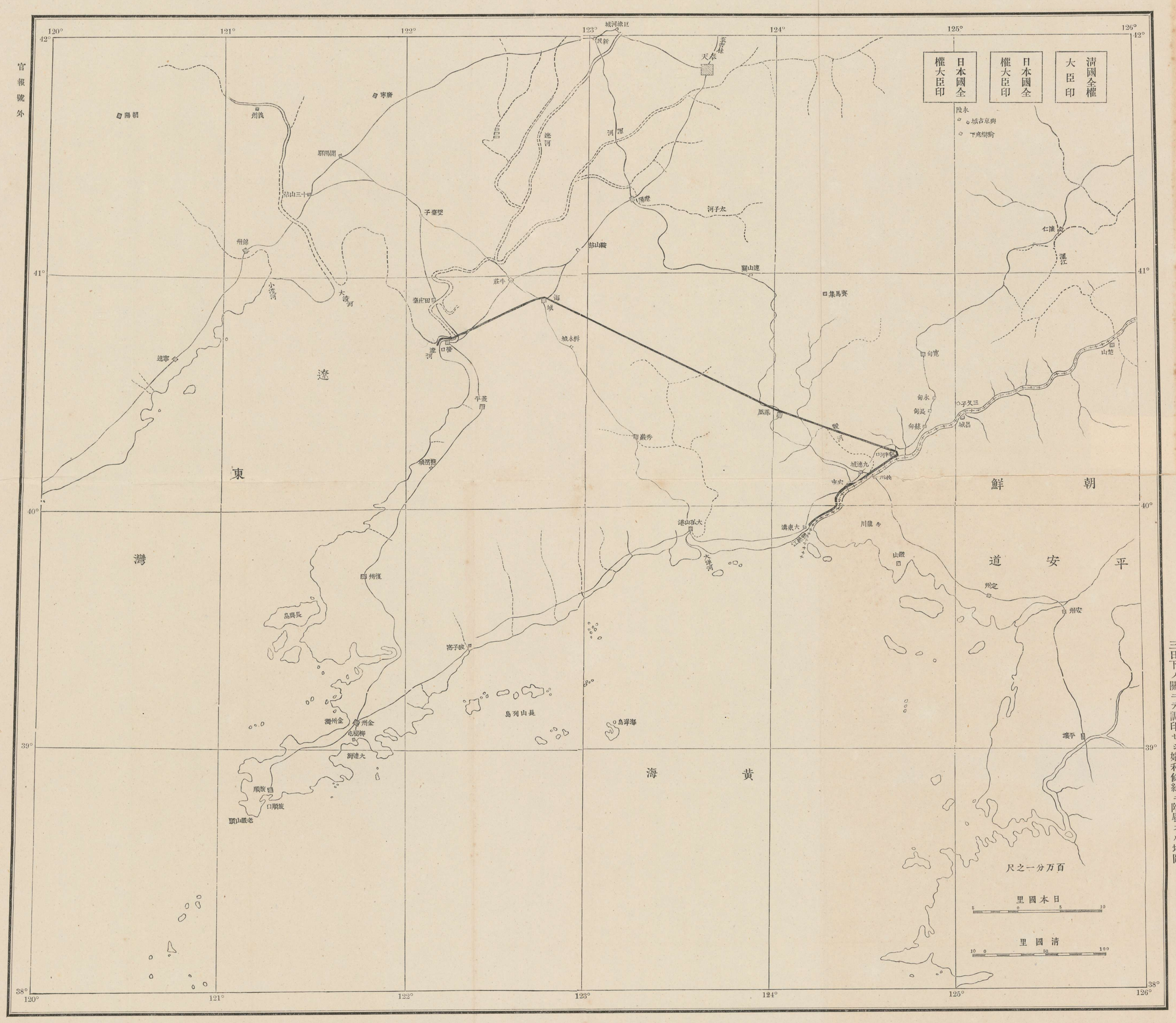
明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日下ノ関ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權辯理大臣 内閣總理大臣 從二位勲一等伯爵 伊藤博文 印

大日本帝國全權辯理大臣 外務大臣 從二位勲一等子爵 陸奥宗光 印

大清帝國欽差頭等全權大臣 太子太傅文華殿大學士北洋大臣 直隸總督一等肅毅伯 李鴻章 印

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣 李經方 印



明治二十八年四月十七日卽光緒二十一年三月二十三日下ノ關ニテ調印セシ媾和條約ニ附屬スル地圖

別約

第一條　本日調印シタル媾和條約第八條ノ規定ニ依リテ一時威海衛ヲ占領スヘキ日本國軍隊ハ一旅團ヲ超過セサルヘシ而シテ該條約批准交換ノ日ヨリ清國ハ毎年右一時占領ニ關スル費用ノ四分ノ一庫平銀五拾萬兩ヲ支拂フヘシ

第二條　威海衛ニ於ケル一時占領地ハ

劉公島及威海衛灣ノ全沿岸ヨリ日本里數五里ノ地ヲ以テ其ノ區域ト為スヘシ

右一時占領地ノ經界線ヲ距ルコト日本里數五里ノ地内ニ在リテハ何レノ所タリトモ清國軍隊ノ之ニ近ツキ若ハ之ヲ占領スルコトヲ許ササルヘシ

第三條　一時占領地ノ行政事務ハ仍ホ清國官吏ノ管理ニ歸スルモノトス但シ清國官吏ハ常ニ日本國占領軍司令官カ其ノ軍隊ノ健康安全紀律ニ關シ又ハ之カ維持配置上ニ付必要ト認メ發スル所ノ命令ニ服從スヘキ義務アルモノトス

一時占領地内ニ於テ犯シタル一切ノ軍事上ノ罪科ハ日本國軍務官ノ裁判管轄ニ屬スルモノトス

此ノ別約ハ本日調印シタル媾和條約中ニ悉ク記入シタルト同一ノ効力ヲ有スルモノトス

右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日下ノ關ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權辨理大臣（内閣總理大臣 從二位勲一等伯爵）伊藤博文 印

大日本帝國全權辨理大臣（外務大臣 從二位勲一等子爵）陸奥宗光 印

大清帝國欽差頭等全權大臣（太子太傅文華殿大學士北洋大臣 直隸總督 一等肅毅伯）李鴻章 印

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣李經方 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕親シク明治二十八年四月十七日下ノ關ニ於テ帝國全權辨理大臣大清帝國全權大臣ノ記名調印シタル媾和條約及別約ノ各條目ヲ閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約及別約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十五年明治二十八年四月二十日廣島行在所ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　子爵陸奥宗光　印

議定書

大日本國皇帝陛下ノ政府及大清國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印シタル媾和條約中ノ意義ニ付將來誤解ヲ生スルコトヲ避ケムト欲スル目的ヲ以テ雙方ノ全權大臣ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　本日調印セシ媾和條約ニ附スル所ノ英譯文ハ該條約ノ日本文本文及漢文本文ト同一ノ意

義ヲ有スルモノタルコトヲ約
ス

第二　若該條約ノ日本文本文ト漢文
本文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ前
記英譯文ニ依テ決裁スヘキコ
トヲ約ス

第三　左ニ記名スル所ノ全權大臣ハ
本議定書ハ本日調印シタル媾
和條約ト同時ニ各兩帝國政府
ニ提供シテ而シテ該條約批准セ

ラルルトキハ本議定書ニ掲載
スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ
批准ヲ要セスシテ亦兩帝國政
府ノ可認セシモノト見做スヘ
キコトヲ約ス

右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ之ニ記
名調印スルモノナリ

明治二十八年四月十七日即光緒二十
一年三月二十三日下ノ關ニ於テ二通
ヲ作ル

大日本帝國全權辨理大臣 内閣總理大臣 從二位勲一等伯爵 伊藤博文 印

大日本帝國全權辨理大臣 外務大臣 從二位勲一等子爵 陸奥宗光 印

大清帝國欽差頭等全權大臣 太子太傅文華殿大學士北洋大臣 直隸總督一等肅毅伯 李鴻章 印

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣 李經方 印

内閣